

第12回 全単位PTA会長研修会

はぐくむ連帯感

PTAの現状を知る



開会のあいさつをする池部県PTA連合会長

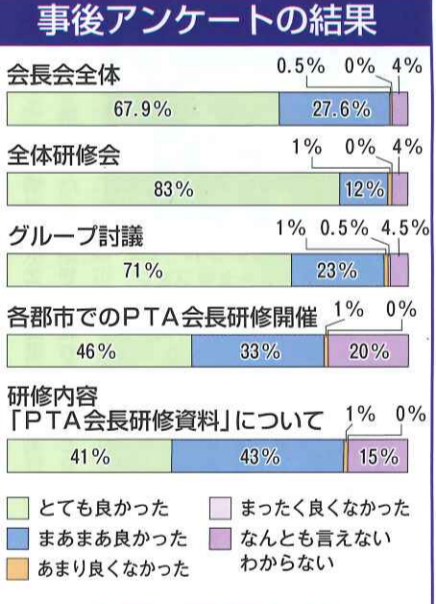
本会は、県内16郡市等の県PTA連理事・母親代表・事務局長ら幹部と362単P会長が一堂に会し開催。組織の牽引役としての資質の向上を図るとともに、生涯学習の視点に立った単Pの研修活動を推進することを目的とした研修会。開会に際し、今年度から県PTA連合会に就任した池部英明会長があいさつ。「本研修会は、会長同士の交流を通じて、子

どものため、学校、地域のため、そして会員である保護者、教職員のために何が出来るのか、PTA会長として、どう考え動くのかといった、会長としてのあり方を考える場である。県下各地域の単P会長が集い、意見交換や情報収集をすることで、地域の特性や学校規模に見合った活動を模索し、課題解決の糸口をつかむ機会になればと思う。県PTA連には、PTAに関する学びの提供と、県下で活動に取り組んでいる皆さまの意見や思いを、県教育委員会などの関係機関に伝えていく役割がある。皆さまが活動に取り組むなかで得た気づきや意見を参考に、PTA活動の機運の向上に努めたい。私自身も皆さまと同じ視野で子どもの成長を願う保護者であり、現役のPTA会員。PTA活動は、子どもの笑顔のために行われている。何かひとつでも良

7月27日(土)、第12回全単位PTA会長研修会が大分県教育会館で開催された。テーマは、「単P会長として見えてきたPTAリーダーのススメ! 会長として何をするの?」大分県PTA連合会幹部と県内の単位PTA会長ら300名が出席し内容の充実した会となった。

大分県PTA はぐく美 発行所 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 責任者 池部英明 印刷所 大分市下郡3154の22 九州凸版印刷株式会社

平成30年度・令和元年度 大分県PTA連合会 指定研究発表会 10/20 日田市立白旗小学校 11/17 杵築市立杵築中学校 11/24 大分市立森岡小学校



- 意見・要望など ● 会長として、リーダーとして必要なことは何かを得る良い研修会だと思う。 ● 会長というプレッシャーが緩和された。 ● 今後の活動の参考になった。モチベーションが上がった。 ● 他郡市等の活動や状況が参考になる。 ● 研修資料で知識を増やすことができた。会長としての専門的知識が参考になる。

出会うと姿勢を正し挨拶をする三年生。教室へ近づく「お久しぶり!」「はぐく、もう作ってみたいよ」と声をかけてくる子ども達。授業が終わる階段を下りると中庭で遊んでいた女の子たちが駆け寄り窓越しのハイタッチ。帰る時には姿の見えなくなるまで手を振り見送ってくれる。子ども達のその姿が眩しい▼子ども達のその優しさは何処から生まれるのだろうか。担任の笑顔が子ども達の心の安定につながっているのは確かだが、家庭が大きな役割を担っていることは間違いない▼子どもにとつて家庭は愛情ある人間関係の中で人間としての基本的な生き方を学ぶ場である。親子の絆の形成にはじまる家族とのふれ合いを通して人間として生きるための基礎的な資質や能力を育てる場である▼子どもを見つめその行動のなかの心づかいや優しさを認め共に喜び合いたいものは大人の役目。時には子どもは大人の目標に立つことも大切だ。大人の優しいまなざしが子どもを優しくする。子どもは常に大人の背中を見て育つことを心しておきたい。「PTA」に参加することで我が子の姿だけでなく、他の子ども達のことや多面的になりました。何とも嬉しい姿である。「育児は育児」子どもも育ては自分の子ども時代を生きなぞのこと。他ならない▼きんもくせいよるになつたらなぞのにおい(大輝)きんもくせいよるになつたらなぞのにおい(はやと)きんもくせいよるになつたらなぞのにおい(レリーナ)きんもくせいよるになつたらなぞのにおい(森の中)小学校三年生の何ともほほえましい作品である。小野京子

楽しくなくっちゃPTA会長じゃない! motto ひょうご代表 栗木 剛氏 私が会長だった頃の実践例 早く協力してもらうために 地域の世帯へ給食便りを配布。学校を身近に感じてもらうための情報提供。話題は何でもいい。身近なところにも疑問や不満がある スーツ用意して...クリーニング代も負担。何ぞ? 本部署女性役員のスーツクリーニング代を会費で負担。礼装が必要な役員にとっても感謝された。 「PTAあるある」で共感

全体研修会では、motto ひょうご代表の栗木剛氏による「楽しくなくっちゃ PTA会長じゃない」と題した講演が行われた。講演は自身の経験とPTA活動の「なぜ」を題材に進行。栗木氏からの「なぜ、あなたここに来るはめになつていくんですか?」を始めとした問いに、出席した会長同士が話し合う時間も設けられた。栗木氏は「この活動なんでもしてらんやろう?」どのくらい効果があるんやろう? 今皆さんが取り組んでいる活動を改めて調べてみるだけでも価値がある、保護者の方が興味を示してくれる活動があるはず。例えばベルマーク収集。全国で取り組まれている代表的なPTA活動なのに、「なぜ」ボランティア活動といわれるのか意外とその仕組みが知られていない。点数を集めて必要な物と交換するだけなら、パンメーカーのパン祭りと一緒に、それを「なぜ」という視点から調べてみると、背景にある本当の価値が見えてくる。PTAに参加するだけで、こういう話が聞けるし、役員をしたからこそ得られる情報がある。「なぜ」という見方がPTAを面白いもの、納得できる活動に変えてくれるのでは。自分の学校では話せない皆さんの「なぜ」も、この場では話せる。県内東と西、南と北、離れた地帯の会長なら情報も漏れなく安心。今日会えたことがここにきた意味になる」と話し、この後に行われるグループ討議に向けた素晴らしいアプローチとなった。

対話で深まる 同志のつながり グループ討議では、小学校(小中連携校含む)11、中学校5グループ、母親部に分かれて、各司業者のもと活発な意見交換がなされた。その内容は、大分県教育委員会との教育問題懇談会につながる「討議の柱」も含まれている。グループ討議 内容は次の通り・抜粋 保護者の価値観の違いについて PTA加入や参加状況等、学校により差がある。参加する利点を周知する努力が必要。 教職員の欠員について 保護者に伝わらず情報共有ができていない。子ども優先の姿勢で公表しにくい環境作りが大事。 特別支援学校・学級の設置基準について 各郡市で支援体制に違い。小中高一貫した体制作りが望まれる。また、保護者の知識、関心に差がある。 部活動について 小規模校では部活を選べない。選択肢が広がる仕組みがあるといい。 ネットモラルについて 規制するより、いじめの愚かさや危険性を学ばせる方が有効では。 各単Pで直面している課題は違うが、会場で得られた多くの共感、今後のPTA運営、会長としてのあり方を考える貴重な糧となった。



県内各地域から参加したPTA会長たち 学校規模、地域性を考慮しつつ討議する

大分県PTA連合会 指定研究発表会

つながる子どもたち

平成30年度・令和元年度の2年間、県PTA連合会指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。家庭・学校・地域が連携することを重視し、子どもを中心として地域の特色を生かした活動の発表となった。2年間の継続的研究の成果が披露され、多くのPTA会員が参加した。



日隈小学校育友会

閉会後のアトラクション

1年生は、地震や津波など、災害が発生した際の対応策や事前準備について報告した。発表が行われた。

2年生は、地震や津波など、災害が発生した際の対応策や事前準備について報告した。発表が行われた。



発表者が10箇所に分かれ一斉に発表するポスターセッション

午後からの全体発表では、防災フェア実行委員会が消防署や警察などを含む約20団体と共催して行う防災活動について発表。

中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「特色ある防災教育を地域・家庭・学校が連携して行っている。生徒と共に参加する防災フェアは、親の後ろ姿を見せる取組。家庭で防災について語り、生徒が災害時に対応できるようにしてほしい」と指導講評した。

我が家と実家はスーパの冷めない距離(車で15分)であった。ゆえに、365日のうち360日は祖父母と顔を合わせ、うちの三姉妹にとってそれはたわいのない日常であり、長女にいたっては校区外の小中学校にバス通学をしていたので、祖父母の家がお迎えの中継地点だった。夕方に

由布市PTA連合会 会長 鄭 加代

日田市多くの小中学校では「育友会」という形態で活動している。日隈小学校育友会の大きな特徴に、子どもの有無に関わらず校区内全世帯を会員として、会費を徴収。古くからの環境、町内みんな子どもを育てる。を受け継ぎ、自治会全てで学校教育に携わる仕組みができています。創立147年を迎える学校は、日田温泉街を校区に持つ三隈川沿いの歴史と文化が息づく伝統校。「地域の子どもは地域で育てる」を目指す学校像に、今年度からコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入している。

今年度、県教育委員会から「防災教育モデル実践事業」の指定を受けた杵築中学校は、防災学習に取り組んできた。午前中の公開授業では、地域を知り、地域を守る「防災」をテーマに学年ごとに発表が行われた。

2年生は、杵築市のハザードマップをもとに、班ごとに担当地区を決めて現地調査を実施。災害時に安全に避難できるように杵築中学校版「防災マップ」を作成し発表した。

3年生は、班ごとに津波や土砂災害など生徒が決めたテーマのもと、現地調査や調べ学習などで得た情報をポスターにして報告した。なかでも、城下町の地震について調べた班は、城下町の特徴である坂が避難経路に数多く存在することや地震による崖崩れなどの二次災害を挙げ、解決策をポスターに掲載。「足腰の弱い人たちが坂を登りやすいように手すりをつけてほしい。崖崩れの危険性がある所を補強してほしい」と、杵築市へ検討してほしい点を発表した。

子どもを命を守る活動。午後からの全体発表では、防災フェア実行委員会が消防署や警察などを含む約20団体と共催して行う防災活動について発表。

中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「特色ある防災教育を地域・家庭・学校が連携して行っている。生徒と共に参加する防災フェアは、親の後ろ姿を見せる取組。家庭で防災について語り、生徒が災害時に対応できるようにしてほしい」と指導講評した。

我が家と実家はスーパの冷めない距離(車で15分)であった。ゆえに、365日のうち360日は祖父母と顔を合わせ、うちの三姉妹にとってそれはたわいのない日常であり、長女にいたっては校区外の小中学校にバス通学をしていたので、祖父母の家がお迎えの中継地点だった。夕方に

由布市PTA連合会 会長 鄭 加代

日田市立日隈小学校育友会(児童数254名、P・T会員数212名)は「トライアングルでつながる笑顔と感謝」「日隈ブランド」がまだし中」を研究主題に公開発表。

開会行事に先立ち行われた公開授業では、地域の方を講師に家庭・学校・地域が豊かに関わり合う姿を発表した。3グループに分かれた1年生は、老人クラブの方を講師に竹笛・めんこ・おはじき・お手玉・あやとり「昔遊び」を楽しんだ。「プー、ピー」

と竹笛で初めて音を出す児童や参加者から笑顔が溢れた。2年生は、読み聞かせの方を講師に自分だけのオリジナル絵本を制作し完成させた。3年生は、公民館の紹介で派遣された書道家の方を指導支援者に「書写」を行った。4年生は、「水と地域の川」

について一学期から学習。地域の水害を知る老人クラブの方を招き、当時の様子とその後の治水について話を聞いた。「昔の日隈は、災害がたくさんあってびっくりした。川を大切にしていきたい」と児童から感想が述べられた。5年生は、保護者で日田祇園獅子保存会の方の指導を受け、簡易の「篠笛」を作って音色を楽しみ体験活動をした。6年生は、女性の活躍にスポットを当てたキャリア教育

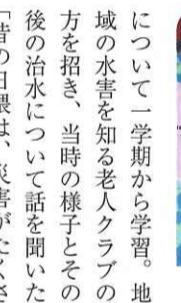


ラミネート加工された昔の広報紙

中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「研究主題をリアルタイムで見られた。育友会活動や地域づくりを自ら主体となり作り上げていく時に、本当に楽しむことができる。今後、学校を核にした地域づくりを進め「私が生きる」居場所づくりが重要になると指導講評した。

由布市PTA連合会 会長 鄭 加代

町内みんな子育て「がまだし中」 日田市立日隈小学校育友会 10月20日(日)



三隈川流域で育つ地域の宝

友を育み 自らを主に楽しむ

開会行事に続いて行われた全体発表では、午前中のみの開催と育友会の状態を多角的に整理した取組を報告した。

我が家と実家はスーパの冷めない距離(車で15分)であった。ゆえに、365日のうち360日は祖父母と顔を合わせ、うちの三姉妹にとってそれはたわいのない日常であり、長女にいたっては校区外の小中学校にバス通学をしていたので、祖父母の家がお迎えの中継地点だった。夕方に

由布市PTA連合会 会長 鄭 加代

開会行事に先立ち行われた公開授業では、地域の方を講師に家庭・学校・地域が豊かに関わり合う姿を発表した。3グループに分かれた1年生は、老人クラブの方を講師に竹笛・めんこ・おはじき・お手玉・あやとり「昔遊び」を楽しんだ。「プー、ピー」

と竹笛で初めて音を出す児童や参加者から笑顔が溢れた。2年生は、読み聞かせの方を講師に自分だけのオリジナル絵本を制作し完成させた。3年生は、公民館の紹介で派遣された書道家の方を指導支援者に「書写」を行った。4年生は、「水と地域の川」

について一学期から学習。地域の水害を知る老人クラブの方を招き、当時の様子とその後の治水について話を聞いた。「昔の日隈は、災害がたくさんあってびっくりした。川を大切にしていきたい」と児童から感想が述べられた。5年生は、保護者で日田祇園獅子保存会の方の指導を受け、簡易の「篠笛」を作って音色を楽しみ体験活動をした。6年生は、女性の活躍にスポットを当てたキャリア教育

中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「研究主題をリアルタイムで見られた。育友会活動や地域づくりを自ら主体となり作り上げていく時に、本当に楽しむことができる。今後、学校を核にした地域づくりを進め「私が生きる」居場所づくりが重要になると指導講評した。

我が家と実家はスーパの冷めない距離(車で15分)であった。ゆえに、365日のうち360日は祖父母と顔を合わせ、うちの三姉妹にとってそれはたわいのない日常であり、長女にいたっては校区外の小中学校にバス通学をしていたので、祖父母の家がお迎えの中継地点だった。夕方に

由布市PTA連合会 会長 鄭 加代



平成30年度・令和元年度

# 体験学習を通して



6年生による森岡の歴史発表



## 2年間の成果を発表



指差し棒で危険箇所を確認

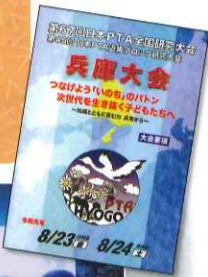
第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会が8月23、24日に開催され、大分県PTA連合会より15名で参加しました。兵庫大会は「つなげよう『いのち』のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ」をスローガンとして全国各地から約8400名のPTA会員や教育関係者が集いました。

私たちが参加した第6分科会では「いのちを守る防災教育」を研究課題として講演・実践発表・パネル討議が披露されました。講演では「防災力につながる生きる力は自分で課題を見つけ・学び・考え、主体的に判断・行動し問題を解決する資質や能力である。落ち着いて柔軟に周りの支援を借りながら、様々な困難に立ち向かう姿勢が問題解決の機会につながる」と

## 第67回日本PTA全国研究大会 兵庫大会に参加して

学びました。姫路市立飾磨中学校の実践発表では「防災教育推進校として防災ジュニアリーダーを育てる活動をし

ている。リーダーの育成は宿泊や大学での活動報告会、校区小学校との防災連携、校内発表会などで防災意識啓発活動に取り組んでいる」と報告されました。パネル討議では、パネリストに講師と地元防災士・飾磨小学校校長・宮城県



自己研鑽を積む  
大分県P連理事の育む力

女川第一中学校元教諭(東日本大震災発生当時)を迎え「いのちを守る防災教育」について有意義な意見が交わされました。「学校が避難所として開設された場合にPTAとしてできることは何か」の問いに「PTAとしての役割を超え職能を生かした得意分野での役割分担が求められる。地域とを結びキーマンとしての重要性がある。また、現役PTAも元PTAも学校の応援団としてつながり連携することが復興の力になるとパネリストからの助言が印象的でした。

この研究大会に参加して未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるためにも、保護者として地域の一員として自ら学び互いを認め合い、交流を深めながら研鑽を重ねていくことの大切さを感じた2日間でした。

大分県PTA連合会 副会長 左藤弘美

森岡小学校は市街地に近いながら自然に恵まれ近隣には歴史遺産が多い。それらを生かした体験活動を行うことで郷土を大切に思う気持ちを育てている。

午前中の公開授業では地域の方が講師となって体験授業が行われた。

1・2年生は混合で3グループに分かれ、地区老人会の方を講師に、お手玉・めんこ・あやとり等の「昔の遊び」を教わった。講師の熟練の技に歓声を上げ、遊びに繰り返し挑戦する姿が見られた。

3年生は大晦日の行事「もりおか夢灯籠」の灯籠制作に向けた準備の段階。ペットボ



片足を前に、膝をやわらかく

トル灯籠に描くふるさと自慢である行事や遺跡、自然などについて意見を出し合った。

4年生は校区にある3km程の河川、一之瀬川流域の自然について学習。川に生息する天然記念物オオイトサシヨウウオと最近復活したホタルの生態を通し、多様な生態系をどのように守るかを考えた。

5年生は地域の産業体験。地区の畳店より講師を招き、ミニ畳作りを通して、道具や仕事に対する心構えを学んだ。「畳とへりを重ねて縫うとき固くて針を通すのが大変だった」などの感想が聞かれた。

6年生は体育館で会の参加

ふるさとを伝える

大分市立森岡小学校PTA(児童数202名、会員数179名)は「絆」森っ子たちの笑顔のための活動「地域・学校・PTA」つながる森岡」を研究主題に公開発表。

午後からの全体発表では、PTAの活動紹介、研究主題に基づく発表が行われた。今年度の保護者を対象にしたアンケートの結果では、PTA活動や学校行事、地域の活動に90%以上の参加がみられ、行事に対する保護者の関心の高さがうかがえる。しかし、高い活動参加率の一方で、参加者が偏る、行事が多い等の意見もあった。昨年度、児童数の減少を受け、地区数を5から4へ縮小する地区編成の見直しを行ったが、活動の効率化や内容の見直しにさらに必要である。しかし、活動を

者前にステージ発表。「森岡に伝わる歴史、一伯公とのつながり」をテーマに、地区の講師から学んだ森岡小周辺の歴史や地域に縁のある徳川家康の孫・松平忠直(一伯公)について、劇とスライド、クイズを交えた演出で紹介した。

減らしていくだけでは子どもたちの安全安心の生活環境は守れない。PTA役員の負担と活動のバランスを考え「できる人ができる時にできるだけの協力をする」という姿勢が大切。また、子ども・PTA・学校・地域が一体となった深い絆を活かし、地域で子どもを育てるという視点とともに、子どもも大人も一緒に育つという意識を今後も大切にしていきたい」と発表した。

小長和宏県教育庁社会教育課社会教育主事は「多くの地域の方が普段から子どもたちと関わっていることが感じられた。今後、保護者と学校、地域で育てていきたい子ども像を共有していくことが重要となっていく。大人も子どもと一緒に学び地域の中で役割を果たしていくことが求められている」と指導講評した。

## 「がんばり坂」の先に広がる地域の絆 大分市立森岡小学校PTA 11月24日(日)



量用の大きな針を使って

## 子育てに役立つ情報を発信 みんなで子育て

横松レイチェル

3

中津市内で夫と3人の娘と暮らしています



プロフィール  
ニュージランド出身  
英会話教師

学校の保健だよりなどは、子どもたちを午後9時まで寝かせた方がいいとおっしゃいます。

就寝時刻を遅くするのはとても簡単です。今の我が家もそうですが、食事、宿題、お風呂と、あつと言つ間に午後11時は忍び寄ってきます。しかし、最初からこうだった訳ではありません。

就寝時刻を遅くするのはとても簡単です。今の我が家もそうですが、食事、宿題、お風呂と、あつと言つ間に午後11時は忍び寄ってきます。しかし、最初からこうだった訳ではありません。

私の母国では、幼い子どもたちは遅くても7時半には寝ます。上の子たちの時は、これより少し遅いと思う8時半までに限定することができていました。どうやってこんな早い時間に寝かせることができていたかという点、ポイントはいくつかありました。

まず、早めの夕食です。私は子どものころから夕食は午後6時と決まっております。遅くても8時を過ぎることは減多にありませんでした。早い夕食の利点は、寝る時間が早まること

## あなたの子どもは何時に寝ますか？

次に、ストーリータイム！ 私はいつも就寝時に子どもたちにも本を読んで聞かせます。これを(特にテレビを消している)子どもたちは楽しみにしています。寝る前の移動するための特別なインセンティブ(誘因)でした。

私の一番下の子はもうすぐ中学生になります。部活などで寝る時間がおそらく今よりもっと遅くなってしまうことでしょう。早くから就寝時間は今のままです。早くから就寝時間は今のままです。早くから就寝時間は今のままです。



防災訓練の様子を発表する佐藤亀川小学校長。その後のパネルディスカッションでは、豪雨災害経験者のP会長らが発生時の対応を討議

「新しい時代を共に歩むPTA」家庭・学校・地域がつながり、高めよう「親力」を大会スローガンに、第64回日本PTA九州ブロック研究大会福岡県大会が、10月26・27日に開催された。

備える 第8分科会「災害対策」

別府市立亀川小学校PTA 親力

「防災におけるPTA・学校・地域行政の連携」をテーマに佐藤裕一校長が提言発表。「2016年4月に起きた地震により、有事の際に指定していた避難所(神社)が被災。新たな避難所を選定する必要がでてきた。学校、PTA、地域の防災士会、自治会、消防、行政などが参加した話し合いで議論を重ね、小学校を含む近隣一帯が津波危険区域



恒松別府中央小P会長が提言発表。現代社会と切り離せないネット問題について討議する

寄り添いながら広がる可能性

全体会では、県から1単Pと個人3名が表彰された。その後の記念講演では、国立青少年教育振興機構理事の鈴木みゆき氏と映画「ピリギヤル」のモデルとなった小林さやか氏による対談が行われた。

「保護者心得六箇条」の活用を 私たちの願いは、子どもたちが輝く笑顔で学校生活を送ることです。それを具体的に進めるために、県P連では「保護者心得六箇条」を策定。小・中学校の新生保護者に配布しています。ご家庭で、ぜひ活用してください。

三井住友海上の安心 GK MS&AD 三井住友海上 大分県PTA連合会補償制度 令和2年度の学生・子ども総合保険は、補償内容を充実、パワーアップして令和2年2月1日より募集開始します。

編集後記 人間力には、シンパシーとエンパシーが欠かせない。腹を括って乗った修学旅行先の絶叫系。娘よ、その体験はいつかきっと役に立つ。(O) 「いってきます」「たーいませ」(T) 学童期にはなかった感情が娘から伝わってくる。声に出しての詮索は禁物。受信感度の微調整をして遊ぶ。(T) 我が子の「将来の夢」変遷。おまわりさん→名探偵→大谷翔平→裁判官。親と一緒に夢をみる。キラキラ笑顔で語る夢を聞き続けた。 (I) 「仕事って大変。勉強の方が楽」2日間の職場体験を終えた我が子が一言。社会の厳しさを学ぶ貴重な経験をした。事業所の方々に感謝。(K)

見極める 第7分科会「ネットモラル・メディアリテラシー」

別府市立別府中央小学校PTA 親力

「子どものネットトラブル防止に向けた、保護者としての第一歩」をテーマに恒松宗典P会長が提言発表。「4、6年生に対し調査を行った結果、ネット利用率が65%という現状が判明。続けて詳細な調査を実施した。個人情報や顔写真、悪口を載せない等、基本的なルールは認知されていたが、SNS等に関心が高いことからトラブルに巻き込まれる危険性があった。学校で行われる高学年の児童と保護者を対象にしたネットモラル授業や児童向けのネットモラルとは別に、本年度はPTAでも保護者対象の講習会を行う予定。ネット世界に対する知識を深め、子どもと一緒に歩いていけるよう保護者への啓発を続けていく」と発表。

助言者の長谷川圭介県教育庁教育財務課指導主事は「情報端末は、便利な生活の道具。公開した情報は取り消せない等のネットの特性、依存症等の心理的・身体的特性等を理解し、賢く使う必要がある。しかし、新たな技術の開発でトラブルの内容は日々変わる。『これで大丈夫』ではないのが現状。判断力、対応力を養い続けることが大事」と講評。 接し方

九州各県より約8000名(大分県からは約384名)が参加し、1日目は9の会場に分かれて分科会が行われた。

「喜び」の実感に酔った。「困難は、「ほほえみ」に 複雑にからみ合う世の中に生きていかねばならない人間には、「困難」にチャレンジするしかない人生の「宿命」があるのだろうか。「微笑」をどのように受けて、立ち向かうかが決め手だろう。 ラグビーボールの複雑な動きに合わせた動きは、人生の「困難」に見えてくる。

第28回大分県PTA研究大会 佐伯市大会 2月20日(日)

第64回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡県大会 親力を考える

「子どもネットトラブル防止に向けた、保護者としての第一歩」をテーマに恒松宗典P会長が提言発表。「4、6年生に対し調査を行った結果、ネット利用率が65%という現状が判明。続けて詳細な調査を実施した。個人情報や顔写真、悪口を載せない等、基本的なルールは認知されていたが、SNS等に関心が高いことからトラブルに巻き込まれる危険性があった。学校で行われる高学年の児童と保護者を対象にしたネットモラル授業や児童向けのネットモラルとは別に、本年度はPTAでも保護者対象の講習会を行う予定。ネット世界に対する知識を深め、子どもと一緒に歩いていけるよう保護者への啓発を続けていく」と発表。

令和元年度 優良PTA 功労者表彰

- 優良PTA文部科学大臣表彰 宇佐市立四日市北小学校PTA
日本PTA会長表彰 大分市立南大分小学校PTA
(団体) 大分市立津原中学校PTA
(個人) 正田 啓二(佐伯市)
川野 雄一(臼杵市)
川野 雄一(臼杵市)
鄭 加代(由布市)

ラグビーボール ラグビー憲章に、品位、情熱、結束、規律、尊重という五つの言葉がある。ラグビーの真骨頂と言えるだろう。ノーサイドの笛が鳴れば、これまでの闘いを互いに脇に置き、笑顔で歩みより、互いに健闘を称え合う。

第41回全国小・中学校PTA 広報紙コンクール表彰

その光景が清々しく映る。憲章の五つの言葉と選手の躍動した姿が重なって。「桜・善戦」(新聞見出し) ラグビーワールドカップの日本代表は、初の八位成績を残し、大会を終えた。大会終了後の各種の報道機関に登場した選手達の大会をふり返ったコメントや表情に、勝利の誇りと充実感にじみ出ているように見えた。 歴然とした体格差を克服し過去になかった成績を残した背景には、過酷な練習と入念な準備が用意されていたようだ。屈強なうえに、更に、屈強な外国勢に立ち向かうには、対戦相手の戦力分析や体力の強化、的確な戦術が大きな課題として突きつけられていたのだった。

「困難」に見えてくる。 複雑にからみ合う世の中に生きていかねばならない人間には、「困難」にチャレンジするしかない人生の「宿命」があるのだろうか。「微笑」をどのように受けて、立ち向かうかが決め手だろう。 ラグビーボールの複雑な動きに合わせた動きは、人生の「困難」に見えてくる。